



# PREX NOW



財団法人 太平洋人材交流センター  
Pacific Resource Exchange Center

## contents

- page 1 ニュース&レポート 1  
年間研修参加者1,100名超を達成
- page 2 ニュース&レポート 2  
南米5ヶ国対象の訪日研修、初めての実施!
- page 3 ニュース&レポート 3  
10年間にわたる訪日研修が終了!
- page 4 訪問先同行記  
「両国の国旗が出迎え」  
石橋商店街訪問
- page 5 ひとこと  
中国経済使節団に参加して  
大阪商工会議所 国際部長 上月 康嗣氏
- page 6 PREXだより  
事務局ニュース、コラム



われわれの使命は、  
常に開発途上国にとって  
有益な存在であり続けることです。



## ニュース&レポート ①

News & Report

# 年間研修参加者1,100名超を達成

[ 2005年度事業実績 ]

2005年度事業は、概ね計画どおり進捗し、年間研修・交流事業35件、内海外研修( 含同窓会フォローアップ )10件、研修参加者総数1,100名超といずれも過去最高となりました。活動実績概要は以下のとおりです。

### 年間研修・交流事業35件、研修参加者1,167名

テーマ・分野	受入研修		海外研修		同窓会フォローアップ		合計	
	件数	参加者数	件数	参加者数	件数	参加者数	件数	参加者数
経営管理	16	185	7	683	1	60	24	928
中小企業振興	4	42	-	-	-	-	4	42
輸出促進・マーケティング	1	18	2	141	-	-	3	159
市場経済化促進	1	4	-	-	-	-	1	4
(小計)	22	249	9	824	1	60	32	1,133
その他の分野	3	34	-	-	-	-	3	34
合計	25	283	9	824	1	60	35	1,167

研修・交流事業は、年間35件、年間研修参加者は1,100名超( 過去最高 )、

企画提案型研修は35件中16件、45%と大幅に拡充。

- ・外務省ロシア案件の現地巡回講座、訪日研修各2件を受託
- ・AOTSの補助金を活用した海外研修6件
- ・海外現地機関からの委託研修( 費用:先方負担 )3件
- ・PREX同窓会フォローアップセミナー1件など

海外研修( 含同窓会フォローアップ )は年間10件( 過去最高 )、

AOTS、JICAの既存システム・機材を活用した遠隔研修2件を実施。

実用的遠隔研修は定着した。

海外研修を中心に訪日研修も含め、合計10の現地機関との連携研修を実施し、関係強化、人的ネットワークの構築に努めた。

12番目の同窓会がミャンマーで発足。メキシコ同窓会フォローアップセミナー実施。

各研修コースでの関西プログラムの取組み、ホームビジットの拡充、一般公開セミナーの開催など、研修事業を通じた国際的人的交流促進の取組みはほぼ定着しつつある。

### PREX設立15周年記念事業実施

PREX国際交流事業積立資産( 通称:国際交流基金 )の2,000万円増強

15周年記念国際シンポジウム開催

15周年記念誌の発行、15周年記念DVD映像の製作



# 南米5ヶ国対象の訪日研修、初めての実施！

[ アンデス共同体 生産性向上コース ]

2月27日からの3週間、アンデス共同体の5ヶ国10名を対象に、生産性向上コースを実施した。本コースは、昨年度まで中南米諸国を対象にJICAにて実施されていたが、今年度から、アンデス共同体を対象を絞って新たに始まり、PREXにて受託した。

アンデス共同体諸国では官民ともに企業経営効率化、品質向上、生産管理等のテーマが重要視されているが、実践的な知見の積み重ねが不足している。また、地下資源を保有する諸国では、その輸出収入に頼りきった経済状況が国内雇用創出機会の拡大を妨げる要因ともなっていることから、天然資源の国内での高付加価値化や、末端の加工部門の大半を担う中小企業振興の重要性が認識されている。

そのような状況の中、本研修では、主テーマとして生産性向上、サブテーマとして経営品質向上に焦点を当て、講義と企



問題解決手法（QC7つ道具など）の演習に熱心に取り組む研修参加者。

業・団体訪問を実施した。

生産性向上に関しては、日本の生産性向上運動を担ってきた生産性本部の役割についての紹介と、企業での生産管理・品質管理に関する講義および企業訪問を行った。また、生産管理手法として、QC7つ道具、新QC7つ道具といった問題解決手法の紹介と演習を行った。

加えて経営品質向上に関しては、関西生産性本部が推進している経営品質賞に関する説明を中心に、関西経営品質賞の受賞企業へも訪問した。

また、研修参加者は中小企業の実産性向上のために、指導・育成する立場であるため、中小企業診断についても紹介した。

これらの講義・訪問を通じ、研修参加者は、日本の生産性向上に関する生産性本部等の取り組みと、企業における生産性向上のための徹底した活動状況を学ぶことができたようである。

中でも、国際機関APO(アジア生産性機構)への訪問は、研修参加者にとって非常に印象的であったようだ。

APOは、生産性の向上を通じアジア太平洋地域の発展に貢献しようとする国際機関であり、工業、農業、サービス業の実産性を向上させるために、人材教育を中心に事業を展開している。現在はシンガポ

ールやカンボジア、フィジーなど、アジアを中心に20の国・地域が加盟しており、加盟国に対し、生産性向上に関する様々な研修事業等を行っている。

現在アンデス共同体諸国には、日本の生産性本部に相当する機関は存在せず、関係省庁や各組織がそれぞれ、生産性向上に関する取り組みを進めている状況である。

研修参加者は、日本やアジア諸国等での生産性向上への取り組みとその重要性を深く認識した様子であった。

本研修が、参加各国の実産性向上と、アンデス共同体としての生産性向上ネットワーク構築に向けての新たな一歩となることを期待したい。

—国際交流部 コースリーダー 高山 真由子



上) 中農製作所にて、品質管理のための様々なグラフが各所に貼ってある前で、説明を受ける。

下) ヒッポファミリークラブの協力により、マレーシアからの別研修参加者19名と合同で、ホームビジットが実現。ホストファミリーの方々とともに対面式にて。



## アンデス共同体

アンデス共同体(Comunidad Andina)は1969年に創設された。加盟国はボリビア、コロンビア、エクアドル、ペルー、ベネズエラの5ヶ国であり、域内人口は約1億1千万人、域内GNP合計は約2560億ドルである。同共同体は主に、統合と協力による加盟国の調和的発展の促進を目指しており、域内の関税撤廃や対外共通関税(関税同盟)に向けた活動を進めようとしている。日本との関係としては、2002年12月、コロンビアの首都ボゴタにおいて、第一回日・アンデス共同体協議を開催し、今後も政治対話の促進、経済技術協力、経済関係強化の3分野を中心に協議を行っていくことで合意した。

## アンデス共同体 生産性向上コース

実施期間	2/27 ~ 3/17
対象	アンデス共同体5ヶ国(ボリビア、コロンビア、エクアドル、ペルー、ベネズエラ)の公的機関や民間コンサルタント会社等における中堅職員10名(各国2名)
委託元機関	独立行政法人 国際協力機構(JICA) 大阪国際センター
内容	日本の生産性向上および経営品質向上に関する取り組みの紹介と企業視察

## お世話になった方々、企業・団体他(講義・訪問順・敬称略)

関西生産性本部 嶋本主任経営コンサルタント・辻本専務理事・森田主任経営コンサルタント、岸谷技術コンサルタント、中農製作所、大阪国際大学 谷川講師、カネテツデリカフーズ、中小企業基盤整備機構、クリストンダイヤモンド工業、国際機関APO、サミット・ラボ 杉村代表、ダイキン工業、ハトライト、リバイブ21 弓場代表、奈良県肥料商業組合、関浦中小企業診断士、二口印刷



# 10年間にわたる訪日研修が終了!

[ マレーシア経営幹部セミナー ]

2月27日から3月17日までの3週間、独立行政法人 国際協力機構(JICA)大阪センターの委託を受け、マレーシア経営幹部セミナーを実施した。本セミナーは、1997年から10年間にわたってPREXが受託し、今年度最終年を迎えた歴史ある研修である。マレーシアの中堅行政官を対象とするもので、参加者数は200名を超えている。なおこの参加者がマレーシアPREX同窓会に参加してきた結果、その会員数はPREX同窓会の中で最多となっている。以下これまでの研修の流れと今年度の取組みを紹介したい。



東寺の前で記念写真。京都府より、行政のIT活用事例として、外国人向け携帯電話サポートシステム「MONAVI」を紹介いただき、東寺までシステムを利用して移動した。

本セミナーは元来、マハティール前首相によって提唱された「東方政策」を受け、日本人の労働倫理を学ぶことを目的として1982年に開始されたものである。マレーシアの経済成長に伴い、研修テーマも変貌を遂げ、1997年から「マルチメディアと人材育成」、2001年からは「人材育成とIT活用」に焦点を置くようになり、現在にいたっている。

今年度で最終年を迎えることから、今年度は、これまでの研修を総括し、かつ研修員にも一層楽しんでもらえるものにすることを意識して企画した。

そこで特に重視したのは、「今後の行政のあり方」「知識集約型社会への成長」の2つをキーワードに、日本の現状紹介にとどまらず、日本・マレーシア双方の情報交換・意見交換の場を設けたことである。

その一つが神戸市での行政改革・人材育成をテーマとした意見交換であった。行財政改革を進める上での課題、業務効率化、職員育成、社会問題、市民協働といった幅広いトピックスが話し合われ、双方にとって有意義な時間となった。

もう一つが、「知識集約型社会の確立に向けたマレーシアの取組み～中進国から先進国へ～」と題して開催した公開セミナーである。

滋賀大学小田野教授による基調講演では、知識集約型社会の実現に向けてイノベーションを継続するための教育努力の重要性が指摘された。その後、松下電器産業株式会社関チームリーダーより、マレーシアにおける松下の人材育成の取組みについてご紹介いただき、続いて、マレーシア工業開発庁シャムジョール副所長より、マレーシアの経済・投資状況・投資先としての魅力についてご紹介いただいた。更に、マレーシアの研修員3名より、所属機関における新たな取組みとして、人材育成システムの向上、ICT戦略計画、都市・地方間デジタルデバイド是正について発表を行った。会場からは、多民族・多言語国家であるマレーシアの言語教育のあり方、そのビジネスにおける優位性などについて鋭い質問があり、活発な意見交換となった。閉会後の名刺交換・意見交換のセッションも盛り上がり、研修員と日本の一般の方々との貴重な交流の場となった。

研修期間中には、学ぶだけでなく、日本を楽しんでもらうことも大事である。京都では、京都市の計らいで東寺を特別拝観させていただき、五重塔の中までご案内いただけた。神戸では生田神社、神戸北野工房のまちを見学後、ムスリムモスクとムスリ

ム向けのレストランをご紹介。充実した時を過ごしてもらえた。更にヒッポファミリークラブのご協力を頂き、ホームビジットにもチャレンジした研修員。各家庭では、着物を着たり、巻寿司と一緒に作ったりと、満喫し、生涯忘れられない友達を作ったようだ。

研修参加者からは、今年度で終了となるのは残念だと惜しむ声が多かった。成長著しいマレーシアが必要とする知識・ノウハウは刻々と変化しており、いつかまた違う形で共同事業を行いたいと思う。

国際交流部 コースリーダー 若菜 愛

## マレーシア経営幹部セミナー

実施期間	2/27～3/17 3週間
参加者	マレーシアの行政機関に勤務する中堅管理者 20名
目的	日本における労働倫理、経営哲学、人材育成のあり方ならびにIT活用状況について理解を深めるとともに新たな知見を得る
委託元機関	独立行政法人 国際協力機構(JICA) 大阪国際センター

## お世話になったの方々、企業・団体他(講義・訪問順・敬称略)

大阪国際大学 谷川講師、滋賀大学 小田野教授、ダイキン工業、西宮市、フジ矢、立山工業、ワコール、京都府、京都市、人事院、総務省、特許庁、NTTデータ、マレーシア大使館、京都大学 久本教授、神戸市、近畿経済産業局、松下電器産業、マレーシア工業開発庁、ヒッポファミリークラブ



ムスリムレストランで久々のゆったりした食事、笑顔がこぼれる。



公開セミナーでは活発な意見交換が行われた。



公開セミナーの後、セミナー参加者と談笑する研修員たち。



## 「両国の国旗が出迎え」 石橋商店街訪問

[ ウズベキスタン・カザフスタン 日本センタービジネスコース ]

当研修は、ウズベキスタンとカザフスタンより、現地日本センターのセミナーを受講した成績優秀者と、同センターの講師候補者の計9名を招き、日本の事情を深く理解してもらうために実施したものである。訪問先は、製鉄と建設機械(重工長大)、ビールとインスタントラーメン(食品)、デパートと商店街(小売り)、着物とお香(伝統)など、バラエティに富んだものとなった。ここでは、商店街の暖かいもてなしに触れることができた一日を紹介したい。

2月16日昼過ぎ、石橋駅の西口改札を抜けると、テレビの取材カメラが待ち構えていた。研修参加者達は、緊張しつつもまんざらでもなさそうな顔つき。地元ケーブルテレビの撮影取材が入るとの連絡を受けたのは当日の朝。研修参加者9名、通訳の大橋さん、そして事務局の筆者は、まず、不動産業「福助商会」を訪ね、今回お世話になる石橋商業活性化協議会会長の明里さんに挨拶。会誌に記事を載せるた

め池田商工会議所の方も同行されるらしい。早速、我々は、商店会会長の西垣さんを手頭に商店街の中へ。

石橋商店街。店舗数は約350で、阪急石橋駅の西口前に広がる。買物客の激減という危機的状態が進む中、これまで独自に活動していた複数の商店会が共同組織をつくり、「おはこ市」などの販促イベントの推進、共同駐輪場の設営などを通じて商店街ににぎわいを取り戻すことに成功。大阪府関連のHP上で、「商店街の連携で危機を乗り越え、買い物客を取り戻す」というキャッチフレーズを見つけたのが今回の縁となった。

テレビカメラを意識しつつ、食べ物屋、日用品店などが建ち並ぶなか、研修参加者達はキョロキョロしながら西垣さんの後に続く。確かに昼過ぎにしては人通りが多く、活気がある。途中、協議会の方が経営する美容院へ入り、女性のお客さんと交流。

「日本ではどんな髪形が流行っているの?」(アリマさん/カザフスタン)。パチンコ屋では、最新の台にはまりそうになり、西垣さんにせかされて出る場面も。一通り商店街を案内してもらった後は協議会の事務所へ。中では、「おはこ市」のはっぴを着た商店街の方々が待っていて下さった。ふと机の上を見ると、両国と日本の小さな国旗が置いてある。皆は大感激。明里会長の歓迎のご挨拶を頂き、質疑応答。「カザフスタンでも商店は大型店に客を取られている。日本ではどんな施策が打たれていますか?」そして、最後は、研修参加者達もはっぴを着せてもらい、全員でにっこりと記念撮影。歓待の余韻さめやらぬ中、我々は石橋商店街を後にした。

この訪問の様子は、翌月曜日の豊中・池田ケーブルテレビの地域ニュース番組で放送され、池田商工会議所の会報でも取り上げられた。商店街のおじさん方、おばさん方の温かいもてなしを受け、日本人の生活文化の一面に触れることができ、研修参加者達にとって忘れられない日になったのではないだろうか。

最後にこの場を借りて、明里会長はじめお世話になった、石橋商店街の皆様にご挨拶申し上げます。

国際交流部 担当部長 菅原 宏



自国の旗が迎えてくれました。



活気のある商店街をキョロキョロと。



日本のパチンコに、はまってしまいました。

### カザフスタン・ウズベキスタン両共和国の視察団が石橋商店街を訪問

去る2月16日(木)、カザフスタン・ウズベキスタンの両共和国ビジネスマン、行政官10名の視察団が石橋商店街を視察しました。財団法人太平洋人材交流センターの企画により行われたものですが、当日は石橋商業活性化協議会会長明里洋助氏(不動産総合コンサルタン)、上田善雄氏(もとしろ美容室)、西垣 猛氏(西垣商店)の三氏を中心となり石橋商店街を案内しました。



今、海外でも大型店舗の出店は商店街に多大な影響を及ぼしているため、この対策への関心度は高く、個店の対応策や石橋商店街の活性化への取組み等について活発な質疑応答が行われました。

池田商工会議所会報「IKEDACCH(3月号)」で、訪問の様子を紹介していただきました。

### ウズベキスタン・カザフスタン 日本センタービジネスコース

実施期間 2/9～2/27  
参加者 ウズベキスタン、カザフスタンの日本センターのセミナーを受講した成績優秀者と、同センターの講師候補者 計9名  
委託元機関 独立行政法人 国際協力機構 (JICA) 兵庫国際センター  
内容 経営管理

### お世話になった方々、企業・団体他 (講義・訪問順・敬称略)

PREXシニア専門家 柚木隆志氏、松下電器歴史館、コマツ大阪工場、中小企業ベンチャー総合支援センター、大阪府ITビジネスインキュベーター、サインポスト、大阪ガス、インスタントラーメン発明記念館、石橋商業活性化協議会、西陣織工業共同組合、サントリー京都ビール工場、住友金属工業和歌山製鉄所、政策研究大学院大学、関西電力、アクティ、文部省高等教育局、大丸心斎橋店、サントリーお客様コミュニケーション部、横浜国立大学、松栄堂、立命館大学



## 中国経済使節団に参加して

大阪商工会議所 国際部長  
上月 康嗣 氏

中国の山東省済南市内をバスで走った。整備された高速道路に林立する近代的なビル、日本と変わらない光景だが、済南の空は黄砂とスモッグで太陽がかすんでいた。内陸部の済南市は盆地のため大気汚染はより深刻なようで、長期間生活すると健康に何らかの影響があるかもしれない。急速な経済成長の陰で負の側面が大きな問題となってきた。

3月19日から25日の7日間、野村大阪商工会議所会頭(大阪ガス会長)を団長とする中国経済使節団が、中国第二のGDPを誇る山東省の青島市と済南市、そして、中国経済の中心地、上海市の3都市を訪問した。

今回のミッションの目的は、ジェットロなどが主催し青島市で開催される「日中韓産業交流会」に参加して、現在最も注目される東アジア、とりわけ日本・中国・韓国の経済連携の可能性を探るとともに、成長を続ける山東省及び上海圏と大阪・関西との地域間のビジネス交流を拡大するほか、中国全人代で策定されたばかりの第11次5カ年計画に盛り込まれた「環境にやさしい社会」の建設という目標について、大阪・関西の産業界や企業が省エネ、省資源、リサイクルなど環境分野でどのような貢献ができるかを模索することである。

山東省は長い海岸線をもち、資源にも恵まれ、孔子や孟子をはじめ多くの哲学者、文化人を輩出した地域だ。今後、経済発展が期待される環渤海湾地域の要衝の一つであるが、広州を中心とする珠江デルタ、上海を中心とする長江デルタに相当な遅れをとっていた。地理的有利さから韓国企業が数多く立地しており、今後、日本企業の進出が本格化すれば、日中韓の3国間ビジネス連携が実現する可能性がある。東アジア連携のモデルケースになるのではないが。

山東省の省都、済南市では、大阪商工会議所は山東省対外貿易経済合作庁と提携調印を行った。孫副省長の意欲的な活動もあって、ここ数年、大阪・関西と山東省の往来が増加しビジネス関係が深まりつつあった。今後、両地域にとってプラスになる

ビジネス関係の構築を目指すことが望まれる。

すでに緊密な関係にある上海では、大阪と上海のより一層の経済交流拡大を目指してセミナーを開催し大阪の魅力を伝えるとともに、環境関連事業も手がける大阪の3企業より、資源・エネルギーの効率的利用などについて、各社の製品や利用事例などを中心に説明した。予想をこえる260名の多数の参加者が熱心に聞き入り、セミナー後の交流会では、ビジネスにつながる名刺交換を行う姿があちこちでみられ、活発な情報交換が行われた。

また、訪問した3都市で中国の環境関連メーカー3社(環境測定器、省エネ型変圧器、太陽光発電パネル)を視察したが、中国政府の新しい方針を背景に、各社とも環境ビジネスで急速な需要拡大を見込んでおり、過去に公害克服など豊富な経験をもち、高度な環境技術を有する日本企業への期待が強く感じられた。

短い期間ではあったが、直接会った省政府、市政府のトップからは、外資誘致をバネに経済発展を続けようという意気込みや、大阪・関西をはじめ日本への熱い期待がひしひしと伝わってきた。一方で、格差や環境をはじめ中国が抱える諸問題について、肌で感じる事ができたように思う。成長の負の側面を解決すべく国をあげて取り組み始めた中国がどうやってそれらを克服していくのか注視したい。

反日デモ以降、中国にはリスクがあるといわれるが、どの国・地域にもリスクはある。インド、ベトナム、ロシアなどライバルが出現してきてはいるが、まだ中国には及ばない。課題があるとはいえ、中国はビジネスの宝庫であり、中国の時代がしばらく続くように思われる。4回目の中国訪問であったが、訪問のたびに变化する中国の様子に驚くとともに、異なる地域を訪問することで、改めて中国の広大さ、奥深さを感じた。引き続き中国の元気を大阪経済の活性化に結びつけることが重要だ。



事務局  
ニュース

評議員会・理事会を開催

3月27、29日に2005年度第2回評議員会・理事会を開催し、2006年度の事業計画と収支予算の承認をいただきました。

役員の異動は下記の通りです。( 退任日：2006年3月29日、任期：2006年3月29日～2007年3月31日、順不同、敬称略 )  
理事

新任：森下 俊三( 社団法人 関西経済同友会 代表幹事 )  
藤田 賢次( 財団法人 太平洋人材交流センター 事務局長 )

退任：松下 正幸( 社団法人 関西経済同友会 代表幹事 )  
評議員

新任：脇村 典夫( 株式会社 大林組 社長 )  
退任：向笠 慎二( 株式会社 大林組 最高顧問 )

5月実施の主な研修

中小企業政策セミナー

期 間 5/31～6/27

対象者 発展途上国で中小企業振興に関する業務に従事している政府職員 10名

メキシコ海外研修

期 間 5/29～6/2

対象者 日本およびアジアとの貿易を考えている企業で当該実務経験が3年以上の経験者、幹部およびマネージャー等 60名

C O L U M N

夢に一步近づけたインターンシップ

立命館大学 国際関係学部 朴智媛(パク・ジウォン)

2月6日から3月24日までの34日間、私はPREXでインターンシップをさせていただきました。事務局が家から片道だけで2時間くらいかかることも、インターンシップをやると2回生の春休みはほとんどなくなるということも十分知っていました。しかし、休みごとに何かしらの形で国際交流活動の経験を積みたいという一念でインターンシップを始めました。

私が参加した研修は「カザフスタン・ウズベキスタン日本センタービジネスコース」、「マレーシア経営幹部セミナー」、「ベトナム日本センタービジネスコース成績優秀者受入研修」です。研修に同行し、大学教授からの講義や会社の役員からの説明、または現場見学はインターンシップだからこそできる大変貴重な経験でした。勉強になりました。

日本のオフィス内で行われている作業方法は、韓国のやり方と違う所があります。例えば、郵便の送り方、住所を書き方などは些細なことではありますが、その違いを知り、一つ一つ学んでいく課程は非常に貴重な経験になりました。

このインターンシップをやりながら責任感を強く感じ、その重要性について常に考えるようになりました。インターンシップをやらなかったら、実際社会に出るまで知らなかったはずの責任感の大切さを、大学2回生で知ることができたのは何より大きな収穫だとも言えます。

事務局員の皆様のおかげで、無事に2ヶ月間のインターンシップを終えることができました。誠にありがとうございました。これからもPREXの更なる発展をお祈りいたします。



小田野教授の講義を聞いている様子



成果発表会で研修参加者にパソコンの操作方法を説明している様子



閉講式で女性参加者だけで集合写真を撮る

～全て「マレーシア幹部セミナー」より

PREXの  
研修実績

2006年  
3月末現在

PREXは、1990年4月  
設立以降、開発途上国の  
人材育成事業と、  
その活動を通しての  
国際的人材交流促進に  
努めています。

研修累計(1990～)

298コース

受講者累計(1990～)

107カ国・地域 9,222名

【受入(訪日)研修 2,859名 /  
海外研修 6,363名】

2006年度計画

28コース 710名

【受入研修 20件 / 海外研修 5件 / 同窓会フォローアップ事業 3件】

2005年度実績

35コース 1,167名

【受入研修 25件 / 海外研修 9件 / 同窓会フォローアップ事業 1件】